

# Next ヒライ信

VOL.3  
2018.6月  
第226号

がくしゅう 楽習塾 塾長 平井 たかお 幸雄

hiraisin@par.odn.ne.jp



五月二十七日百人一首の日 発行予定

## 平成の百人一首（ヒライ流）その⑤ 最終

百人一首をヒライ流に現代版に替え歌（パロディー・もじり・語呂合わせ）第5弾（最終）です。今回81～100首です。長い間お疲れさまでした。

人生百年の時代を迎えた。私も後期高齢者になった。平成の時代が終わる。ヒライ流百人一首を作り終えたところで、これを「平成百人一首」（人生百年の一生を詠む）という冊子にまとめてみたい。また「歌留多」にしてみたい。



元歌

081 後徳大寺左大臣 ほととぎす  
鳴きつる方をながむれば ただあり  
あけの 月ぞ残れる

082 道因法師 思ひわび さて  
もいのちは あるものを 憂き  
にたへぬは 涙なりけり

083 皇太后宮大夫俊成 世の  
中よ 道こそなけれ 思ひ入る  
山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる

084 藤原清輔朝臣 ながらへ  
ば またこのごろや しのばれ  
む 憂しと見し世ぞ今は恋しき

後徳大寺左大臣  
ほととぎす  
泣いている方を  
ながむれば  
ただあれだけの  
悔いだけ残る

女の涙に、男は弱い。女に泣かれると、男は困る。そうならないために男は涙を呑んで我慢するのだ。男はつらいよ。

道因法師  
思ひ出す  
さても命の  
ある限り  
雨期に怖きは  
豪雨なりけり

百年に一度起きるか起きないかの気象に注意！という情報が流れるが、百年前に私は生きていないので、実感がない。

皇太后宮大夫俊成  
世の中の  
道はどこにも  
通じてる  
山の奥にも  
鹿いなくなる

縦横無尽に広がる日本の道路だが、自然破壊にならないようにしてもらいたい。普通だった通学路をとぼとぼ歩く今。

藤原清輔朝臣  
長らえは  
またこの頃を  
思い出す  
美しいころ  
恋をする頃

長く生きてきて、歳をとり、若いころを懐かしんで、何か「ときめく」ものがある。心臓が順調に働いているようだ・・・

ヒライ流にしつけ

085 俊恵法師 夜もすがら 物  
思ふころは 明けやらで 闇の  
ひまさへ つれなかりけり

086 西行法師 嘆けて 月や  
は物を 思はする かこち顔な  
る わが涙かな

087 寂蓮法師 村雨の 露もま  
だひぬ まきの葉に 霧立ちの  
ぼる 秋の夕暮れ

088 皇嘉門院別当 難波江の  
葦のかりねの ひとよゆ糸  
みをつくしてや 恋ひわたるべき

俊敏法師  
夜もすがら  
夜釣りをしても  
成果なし  
池の魚も  
釣れなかりけり

私は釣をやらない。釣りは趣味ではない。なぜなら、魚のえさになるミミズやゴカイが嫌いだから・・・

東行法師  
嘆けて  
月日のたつは  
早いもの  
いつやるかよ  
今でしょ！かな

時間の経つのが早く感じるのは「ジャンナーの法則」です。時間の心理的長さは年齢の逆数に比例する。それと、子供のように生活に新鮮味がなくなるからだそうです。

静寂法師  
無駄遣い  
ついでに浪費  
まだ足りぬ  
腹立つばかり  
もっと何かくれ

無駄遣いしないように思っても、無理だ。ムラっ気があり続かない。そんなことを考えるのが無駄・・・ムダ・ムリ・ムラの3M主義を貫いている。

皇嘉門院別当  
何かしら  
明日も仮寝の  
ひとりゆゑ  
身を尽くしても  
声かけてほしいな

夫婦もいずれどちらかが独り暮らしになる。生きている間はお互いうるさいと思って・・・互いに声を掛け合おう・・・

089 式内親王 玉のをよ  
たえなばたえね ながらへば  
忍ぶることの 弱りもぞする



歳をとると怒りっぽくなる。老い先が短くなると、気も短くなるからか？歳をとったら気長にのんびりしましょう。

090 殷富門院小輔 見せばや  
な 雄鳥のあまの 袖だにも  
濡れにぞ濡れし色は変はらず



水も滴るいい男というが、女性も濡れると、ビジョビジョ（美女美女）になるのかな？

091 後京極折衝前太政大臣 きり  
ぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに  
衣かたしき ひとりかも寝む



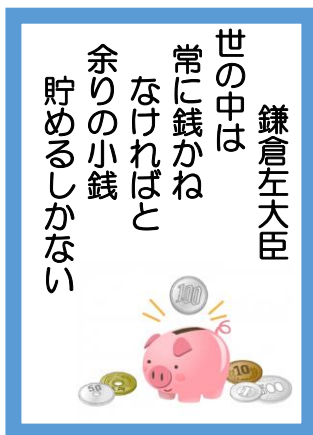
「年寄りの冷や水」と言われたいよう、老人は歳に不相応な無茶行動や、差し出た振る舞いをしないようにしたい。

092 二条院讃岐 わが袖は 潮  
干に見えぬ 沖の石の 人こそ  
知らね 乾くまもなし



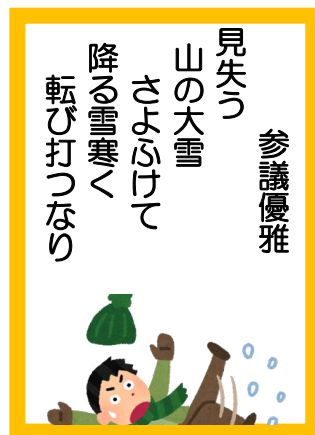
自分の想いを、胸に秘め、いつか明かそうと思っていたが、月日がたつて忘れてしまった。あの想いは忘却の彼方・・・

093 鎌倉右大臣 世の中は つ  
ねにもがもな 渚こぐ あまの  
小舟の 綱手かなしも



タンス預金をしたいが、うちには筆筒がない。その代わりに蔵がある。小金持ちは金持ちだ。金蔵建てた蔵建てた♪

094 参議雅経 み吉野の 山の  
秋風 さ夜ふけて ふるさと寒  
く 衣うつなり



「そと（外）」はゆき（雪）だよ。「そと」ゆき（行き）な。雪が「つ」もったら、気を「つ」けな。

095 前大僧正慈円 おほけな  
く うき世の民に おほふかな  
わが立つ袖に すみぞめの袖



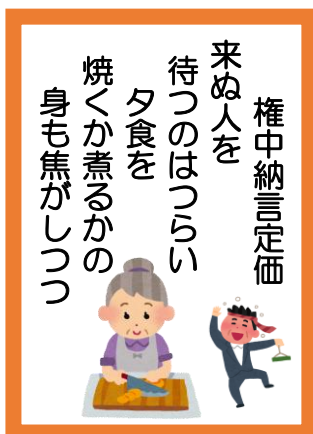
酒を飲んで、一張羅のスーツに「シミ」がついた。なんと言い訳しようかな。そんなことを考えるしみだった奴。

096 入道前太政大臣 花さそふ  
嵐の庭の 雪ならで ふりゆくもの  
は わが身なりけり



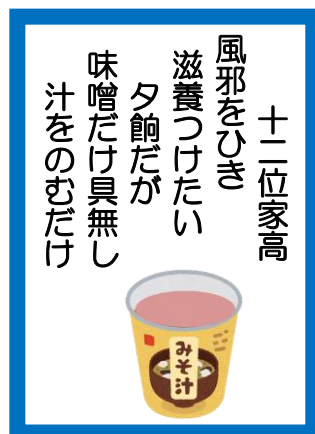
夜の炭水化物を制限してダイエットしている。やりすぎて、栄養・エネルギー不足にならぬよう肉食男子を心がけている。

097 権中納言定家 こぬ人を  
まつほの浦の 夕なぎに 焼く  
やもしほの 身もこがれつつ



外出する際、「夕食は？」と聞かれる。「う～ん？」と生返事すると「煮るなり焼くなり好きにしろ」と返される。

098 従二位家隆 風そよく なら  
の小川の 夕暮れは みそぎ  
ぞ夏の しるしなりける



塩分控えめで、味噌・醤油なども薄めに薄味にしている。おかげで、私の脳ミソも薄く、味気なくなってきたようだ。

099 後鳥羽院 人もをし 人も  
恨めし あぢきなく 世を思ふ  
ゆゑに 物思ふ身は



人を押しつけ、強引に事を運んではいけない。他人の話をよ～く聞いて、対応したいものだが・・・どうしても

100 順徳院 百敷や ふるき軒  
端の しのぶにも なほあまり  
ある 昔なりけり



若者の間にダメージジーンズが流行っている。それがおしゃれとは思わないが・・・老人が履くとダサイか見すばらしい。